



琉球日本大那三國ノ關係誤正

第二号止

琉球日本大那三國ノ關係誤正
 第二号止
 琉球日本大那三國ノ關係誤正
 第二号止



琉球日本大那三國關係誤正

第二号止



此レヨリ
シテ且
譯日リ
ト對照

ノ關係誤正

第二号止



此レヨリ以下ハ誤正一二廉アルノミニ
シテ且ツ格別ノ一モ之レナク候得共英
譯日^リ和譯セシ分ニ係ルヲ以テ一應佛文
ト對照候ニ付供高覽候

イ 4
A 740
2

此原文ハ佛文ナレド是レヨリ以下ハ一旦英譯ニ
付シタル後ノ邦譯ニ係ルト云爾

大正十一年四月
隈侯爵寄贈

伊東已代治 譯



前編 第五回日ノ續キ

琉球ノ地位ニ関シテ這般变革ノ原因ハ既ニ我輩カ前ニ叙述ス
ルガ如シ而ノ右ニ叙述スル所ノモノヲ以テ日本政府ノ舉措ニ
付テ其當否如何ヲ熟考セバ果ノ右等ノ事由ハ充分ニ其所為ノ
至當ナルヲ証スルニ足ラザルモノトスベシ我輩ハ前ニ其處置
ノ上ムヲ得ザルニ出テタルヲ明言シタルモ直ニ之ヲ以テ至當
ノ所為ナリト認定スルヲ得ザルナリ到底琉球ヲ屈服凌辱スル
ガ如キハ政府ニ於テ豫メ少シク思慮スル所アラバ果ノ此ノ如
キ断行ノ處々ヲ為ヌラ免レタルベキニ堪ヘヌナリ政府竟ニ自ラ
今日ノ不利ヲ招キタリ抑モ琉球ノ國タル數千年間孤立ニ安ン
シ臺モ今日ノ我務アルヲ夢想セザリシナリ又未ダ曾テ琉球ヲ
以テ真ニ今日ノ責任ヲ負フモノナリト思惟セシモノアラザル

東正館

740
2

此原文ハ佛文ナレド是レヨリ以下ハ一旦英譯ニ付シタル後ノ邦譯ニ係ルト云爾

大正十一年四月
大隈侯爵御寄贈

伊東已代治 譯

前論(第五回)日ノ續キ

琉球ノ地位ニ関シテ這般變革ノ原因ハ既ニ我輩カ前ニ叙述スルガ如シ而シテ右ニ叙述スル所ノモノヲ以テ日本政府ノ舉措ニ付テ其當否如何ヲ熟考セバ果シテ右等ノ事由ハ充分ニ其所為ノ至當ナルヲ証スルニ足ラザルモノトスベシ我輩ハ前ニ其處置ノ止ムヲ得ザルニ出テタルヲ明言シタルモ直ニ之ヲ以テ至當ノ所為ナリト認定スルヲ得ザルナリ到底琉球ヲ屈服凌辱スルガ如キハ政府ニ於テ豫メ少シク思慮スル所アラバ果シテ此ノ如キ斷行ノ處分ヲ為ヌヲ免レタルバキニ堪ヘヌナ政府竟ニ自ラ今日ノ不利ヲ招キタリ抑モ琉球ノ國タル數千年間孤立ニ安ンシ毫モ今日ノ我輩ナルヲ夢想セザリシナリ又未ダ曾テ琉球ヲ以テ真ニ今日ノ責任ヲ負フモノナリト思惟セシモノアラザル

誤正ノ廉



和呼者曰英譯
者此一字以テ
ルニ由ナシ故ノ用ナ
ル一字他ニ影響シ

ルニ由ナシ故ノ用ナ
ル一字他ニ影響シ

テ章句ヲ為サレモ
原文ノ意ヲ害ハン
トテ恐レ為ニ英文
俚ヲ存ス

是ヲ以テ或ハ日本政府ニ於テ琉人ニ迷妄ヲ責罰センヨ
リ寧ロ琉人ノ家ヲ奪キ其惑ヲ解クヲ以テ自ラ任スルノ策ヲ施
スベキノ義務ヲ有ニタルベシ畢竟スルニ若シ政府ノ措置果メ
此ニ出ルマシムニ造ニ今日ノ政策ニ勝リタルベキマ必セリ我輩
カ前ニ開陳シタル如ク日本政府ガ敢テ支那ト交通ヲ絶ツベク
琉球ヲ強迫シテ極度ニ至ラシメタル旨ヲ偽リ以テ琉人ノ支那
ト私通ヲ為シタルヲ付テ其名義トスル所素ヨリ更ニ信據ヲ
措クニ足ラス今退テ其一方ヲ顧ルニ此ノ如キノ交通ハ固ヨリ
薩摩ノ法律ニ違背スル所ナルヲ免レザルモ猶因襲ノ久キ之ヲ
以テ断ノ不正ノ業ヲリトスルヲ得ザルニ至レリ故ニ琉球ノ支
那ニテ琉球ノ支那ニ使フル
云フヲ得ザルニ至レリ

註和ヨリハトリナサレ
註和ニ因ニテ支那ノ使
一ニハナシトス

ス(英譯者曰ク此ノ處佛其故如何トナレバ今公義ヲ以テ論スル
文頗ル曖昧ヲ有ム) 毛曾テ薩摩州ニ於テ單ニ其附庸タルニ止リ其内属ノ地ニ非ザ
ルノ琉球嶋ヲ合併シタルノ事由ニ基キ日本ノ該島ヲ合併シタ
ルハ未タ該服役ヲ今日ニ絶タシムルニ足ラザルモノナレバナ
リ當時琉球ト支那トノ間ニ存シタル關係ヲ猶今日ニ至ル迄之
ヲ存續セシメタルガ為ニ日本ノ國体ヲ傷ケ日本ノ國是ヲ妨ケ
併セテ其社會ノ秩序ヲ紊シタリト云フノ場合ニ至テ始メテ右
ノ如キノ情実ナルニ拘ハラヌ政府ハ琉球島ニ對シテ断行ノ處
分ヲ施ス今日ノ如キノ名義ヲ唱フルヲ得タルベキモ我輩ノ
視ル所ニ由レバ夫ノ關係ハ決シテ此ノ如キノ場合ニ非ザリシナ
リ但シ政府ノ一方ニ於テハ夫ノ關係ヲ默許シ為ニ自カラ琉球
島ニ支那ノ使ヲ獎勵シ又一方ニ於テハ勉メテ之ヲ其帝國內
ヲ擯斥シタルノミナラズ一時モ早ク之ヲ擯斥スルヲ以テ得

誤正ノ廉

和呼者曰ク英譯者此一字ヲ以テ頗ル曖昧ヲ極ムト爲ス今英譯ニ依テ此ノ和譯ヲ爲ス素リ記者ノ真意ヲ解スルニ由ラシ彼ノ服役ノ一字他ニ影響シ

是ヲ以テ或ハ日本政府ニ於テ琉人ノ迷妄ヲ責罰センヨリ寧ロ琉人ノ家ヲ破キ其惑ヲ解クヲ以テ自ラ任スルノ策ヲ施スベキノ義務ヲ有スルベシ畢竟スルニ若シ政府ノ措置果メ此ニ出ルマデハ違ニ今日ノ政策ニ勝リタルニキヤ必セリ我輩カ前ニ開陳シタル如ク日本政府ガ敢テ支那ト交通ヲ絶シバク琉球ヲ強迫シテ極度ニ至ラシメタル旨ヲ偽リ以テ琉人ノ支那ト私通ヲ爲シタルヲ付テ其名義トスル所素ヨリ更ニ信據ヲ措クニ足ラス今退テ其一方ヲ顧ルニ此ノ如キノ交通ハ固ヨリ薩摩ノ法律ニ違背スル所ナルヲ免レザルモ猶因襲ノ久キ之ヲ以テ断ノ不心ノ業ヲリトスルヲ得ザルニ至レリ故ニ琉球ノ支而ニテ琉球ノ支那ニ使フルト使ヘザルトハ彼レハ勝手ニ任ス可ラズト云フヲ得ザルニ至レリ

テ章句ヲ爲セルモ原文ノ意ヲ害ムハ一ヲ恐レ爲ニ英文ニ終ヲ存ス

ス(英譯者曰ク此ノ處佛其故如何トナレバ令公義ヲ以テ論スル文頗ル曖昧ヲ極ム)モ曾テ薩摩州ニ於テ單ニ其附庸タルニ止リ其内属ノ地ニ非ザルノ琉球嶋ヲ合併シタルノ事由ニ基キ日本ノ該島ヲ合併シタルハ未タ諒服役ヲ今日ニ絶タシムルニ足ラザルモノナレバナリ當時琉球ト支那トノ間ニ存シタル關係ヲ猶今日ニ至ル迄之ヲ存續セシメタルガ爲ニ日本ノ國体ヲ傷ケ日本ノ國是ヲ妨ケ併セテ其社會ノ秩序ヲ紊シタリト云フノ場合ニ至テ始メテ右ノ如キノ情実アルニ拘ハラヌ政府ハ琉球島ニ對シテ漸行ノ處カヲ施ス今日ノ如キノ名義ヲ唱フルヲ得タルベキモ我輩ノ視ル所ニ由レバ夫ノ關係ハ決シテ此ノ如キノ場合ニ非ザリシナリ但シ政府ノ一方ニ於テハ夫ノ關係ヲ默許シ爲ニ自カラ琉球島ニ支那ノ勢力ヲ整勵シ又一方ニ於テハ勉メテ之ヲ其帝國内ヲ擴張シタルノミナラズ一時モ早ニ之ヲ擴張スルヲ以テ得

是ヲ以テ或ハ日本政府ニ於テ琉人ニ迷妄ヲ責罰セシヨ
リ寧ロ琉人ノ家ヲ奪キ其惑ヲ解クヲ以テ自ラ任スルノ策ヲ施
スベキノ義務ヲ有シタルバシ畢竟スルニ若シ政府ノ措置果メ
此ニ出ルアハ遙ニ今日ノ政策ニ勝リタルベキヤ必セリ我輩
方前ニ開陳シタル如ク日本政府ガ敢テ支那ト交通ヲ絶ツバク
琉球ヲ強迫シテ極度ニ至ラシメタル旨ヲ偽リ以テ琉人ノ支那
ト私通ヲ為シタルトニ付テ其名義トスル所素ヨリ更ニ信據ヲ
措クニ足ラス今退テ其一方ヲ顧ルニ此ノ如キノ交通ハ固ヨリ
薩摩ノ法律ニ違背スル所ナルヲ免レザルモ猶因襲ノ久キ之ヲ
以テ断ノ不心ノ業ヲリトスルヲ得ザルニ至レリ故ニ琉球ノ支
那ニ於ケル其關係ハ一種服役ノ類ト認定スバキモノニシテ此
如キハ琉球ニ於テ之ヲ廢棄スバシト断念スルハ日ニ至ル迄
之ヲ存續スルヲ得バキ權利ナルトハ更ニ之ヲ拒否スルヲ得

和呼者曰ク英譯
者此ノ一字ヲ以テ

一字他ニ影響

英譯者

モ亦明

訂正

ス英譯者曰ク此ノ處佛
文頗ル曖昧ヲ有ム其故如何トナレバ今公義ヲ以テ論スル
モ曾テ薩摩州ニ於テ單ニ其附庸タルニ止リ其内屬ノ地ニ非ザ
ルノ琉球嶋ヲ合併シタルノ事由ニ基キ日本ノ該島ヲ合併シタ
ルハ未タ該服役ヲ今日ニ絶タシムルニ足ラザルモノナレバナ
リ當時琉球ト支那トノ間ニ存シタル關係ヲ猶今日ニ至ル迄之
ヲ存續セシメタルガ為ニ日本ノ國体ヲ傷テ日本ノ國是ヲ妨ケ
併セテ其社會ノ秩序ヲ紊シタリト云フノ場合ニ至テ始メテ右
ノ如キノ情實ナルニ拘ハラス政府ハ琉球島ニ對シテ断行ノ處
方ヲ施ス今日ノ如キ名義ヲ唱フルヲ得タルベキモ我輩ノ
視ル所ニ由テ夫ノ關係ハ決シテ此ノ如キ場合ニ非ザリシナ
リ但シ政府ノ一方ニ於テハ夫ノ關係ヲ默許シ為ニ自カラ琉球
島ニ支那ノ獎勵シ又一方ニ於テハ勉メテ之ヲ其帝國內
ヲ擴張シタルノミナラズ一時モ早ニ之ヲ擴張スルヲ以テ得

テ章句ヲ為サレモ
原文ノ意ヲ害シ
テ恐レ為ニ英文
俚ヲ存ス

本政府ニ於テ琉人ニ迷妄ヲ責罰セシヨ
キ其惑ヲ解クヲ以テ自ラ任スルノ策ヲ施
タルバシ畢竟スルニ若シ政府ノ措置果メ
今日ノ政策ニ勝リタルニキヤ必セリ我輩
ニ至ラシメタル旨ヲ偽リ以テ琉人ノ支那
ニ付テ其名義トスル所素ヨリ更ニ信據ヲ
其一方ヲ顧ルニ此ノ如キノ交通ハ固ヨリ
ル所ナルヲ免レザルモ猶因襲ノ久キ之ヲ
リトスルヲ得ザルニ至レリ故ニ琉球ハ支
一種服役ノ類ト認定スバキモノニシテ此
之ヲ廢棄スバシト断念スルハ日ニ至ル迄
バキ權利アルトハ更ニ之ヲ拒否スルヲ得

佛其故如何トナレバ令公義ヲ以テ論スル
事ニ其附庸タルニ止リ其内属ノ地ニ非ザ
タルノ事由ニ基キ日本ノ該島ヲ合併シタ
日ニ絶々シムルニ足ラザルモノナレバナ
ノ間ニ存シタル關係ヲ猶今日ニ至ル迄之
為ニ日本ノ國体ヲ傷ケ日本ノ國是ヲ妨ケ
ヲ紊シタリト云フノ場合ニ至テ始メテ右
拘ハラス政府ハ琉球島ニ對シテ断行ノ處
キ名義ヲ唱フルヲ得タルベキモ我輩ノ
關係ハ決シテ此ノ如キ場合ニ非ザリシナ
於テハ夫ノ關係ヲ默許シ為ニ自カラ琉球
勵シ又一方ニ於テハ勉メテ之ヲ其帝國內
ナラズ一時モ早ニ之ヲ擯斥スルヲ以テ得

英譯者佛文ヲ以テ曖昧ナリトセシヨリ和譯
モ亦明亮ナラザリシ一段佛ノ原文ニ因テ和譯ヲ
訂正スルニ慮

思惟シタルが如キニ至リ政府曰難ハ實ニ我輩ノ察シテ
疑ハザル所ナリ故ニ今日ノ舉措ナクンバ政府ノ所為ハ恰モ右
手ヲ以テ一物ヲ顛倒セシトスルヲ支柱シナガラ猶左手ヲ以テ
之ヲ打毀セシムスルニ異ナラザルノ譏ヲ免ルザリシヤモ未ダ
知ルベカラス然リト雖ハ一ノ極点ニ陥ラザランコトヲ欲シテ為
ニ復タ他ノ極度ニ局促スルが如キノ下策ハ蓋シ政府ノ自ラ免
ルコトヲ得タリシ所ナルベキナリ然リ而メ一千八百七十三年
支那ニ向テ施シタル確固不動ノ政畧ヲ以テ國是トシ傍ヲ漸ヲ
以テ夫ノ旧慣ヲ墨守スル頑固執拗ノ琉人ニ処スル所アラバ徒
ニ彼輩ノ怨嗟ヲ蒙ル政府今日ノ舉措ニ於ケルカ如クナラズ
シテ以テ果ノ能ク其目途ヲ達スルコトヲ得タリシバ我輩ノ信ノ
疑ハザル所ナリ今試ニ愛蘭人が羅馬府ニ往キテ天主教王ノ足
ヲ啜フヲ着ヨ英區政府ハ此等瑣末ノ事ヲ以テ決シテ其意ニ介

セザルナリ英國政府ノ愛蘭人ヲ處スル特ニ嚴酷ナルモ猶且ツ
然リ然ラバ則支那帝ガ自ラ寰宇ノ法王ニ任シ壯年ノ琉球貴人
ニ授クルニ宗教上ノ教育ヲ以テスルが為ニ琉人其化育ノ恩ニ
酬ヒント欲シテ絶ニ支那ニ往來スルヲ妨ケカアル況ヤ
一千八百七十三年ニ於テハ琉球ハ單ニ日本帝國ノ附庸國タル
ニ止マリ曾テ其内属ノ地ニ非ザリシニ於テコヤ
琉球ガ支那ニ封冊ヲ受クルコト又ソノ福州ニ於テ海關稅ヲ納ム
ルコトニ就テ尚討議スベキ問題アリ然レトモ我輩ノ想像ニ由レ
バ此ノ二箇ノ儀式タル之ヲ執行スルニハ琉球王莫大ノ費用ヲ
要スルモノナリ故ニ琉人ヲ説破スルニ足レバキ地位ヲ有ス
ルノ官吏ヲシテ該件ヲ查察セシムルノ勞ヲ取ルアラバ別ニ非
常ノ煩惱トシテ謀トテ要セシメテ以テ琉人ヲシテ夫ノ慣行ヲ
廢止セシムルコトヲ得タルベシ而ノ島津公ニ注時琉球ノ主權者

トシテノ縁故アルモノナルヲ以テ該件ノ商議又為サシムル
ニハ該公ヲ附シ他ニ其人アルバカラス但シ當時島津公ハ不平
ヲ懷キ政府ニ對シ猶拘辰スル所アリシヲ以テ仮令ニ其命ヲ蒙
ルモ断然之ヲ辭シタルベキヤモ知ルバカラスト云ハ其愛國
ノ氣慨ハ復タ以テ其一時ノ憤怒ヲ忘レシタルベシト追想ス
ルハ決シテ其理ナキニ非ザルナリ仮令ニ當時該公ノ助成ヲ得
ルヲ能ハザリシモ該件ヲ商議スルニ就テハ何ゾ必シモ前日該
島ニ派遣シタル如キ卑賤官吏ノ類ヲ以テヤスシテ稍之ニ勝リ
タルモノヲ擇出スルヲ得タルベキハ決シテ難キニ非ザリシ
ナリ事情此ノ如シ固ク其任ニ堪ユバキ恰當ノ人ヲ擇ンテ以テ
琉球ノ迷妄ヲ擲醒ヤシメ又其一方ニ於テハ北京政府ヲ説破ス
ルニ疑ナキ智畧ト經歷トヲ兼備スル外交家ヲ擇ンテ以テ支那
ト該商議ヤシムルハ實ニ當時ノ緊務ナリキ而メ支那ト此ノ活

戯ヲ演ヤシムベキ優人ニハ蓋シ衆望ハ自ラ副島氏ヲ以テヤン
トニ歸シタルベシ
然ルニ政府ノ舉措此ニ出テス今其所為ヲ擧ケンニ曰ク政府ハ
琉球ニ派遣スルニ何等經歷ナキ官吏乃チ其人ハ國內ノ有力社
會ニ名モ知ラレザルモノニシテ隨テ何等他人ノ信用ヲ博スル
ヲ能ハザルモノヲ以テヤリ而メ北京駐劄ノ公使館ヲ問ヘハ則
チ曰ク之ニ代理公使ノ手ニ委子リト此ノ代理公使タル我輩真
ニ其秀才伶俐ノ人ナルヲ疑ハスト雖モ其外交上ノ事ニ任スル
ガ如キニ至テハ其身世故ニ練熟シ高位高爵ヲ踏ム一箇ノ俊傑
タルバク人ヲシテ仰望ヤシムルニ足ルベキ威權ヲ有セザルガ
故ニ自ラ卑屈ニ處スルヲ免レザルナリ
事情此ノ如クニ政府是レヲ察セス敢テ支那ノ尊ムベキ
ヲ侮シ而メソノ後來ニ何等ノ事業ヲ為シ能フベキ國力アル

愚ラザリシハ實ニ改テノ過失、亦ズバアラス
夫レ支那ノ國ノ人民ト貨幣トニ富ム其缺ク所ハ唯其腐敗ヲ
利用スルノ智畧ヲ有スルノ執政家ニ在リ故ニ若シ支那ニ忽チ
一大變革ヲ生シ此ノ如キ英傑ニシテ一朝中國ノ帝位ニ登ルガ
如キアラバ日本ハ隣國ニ於テ曾テ夢思セザルノ一大強敵手ヲ
出頭シ為ニ不測ノ危險ヲ冒スニ至ルベシ而シテ此ノ如キノ一大
變革ハ屢々東洋諸國ニ起ル所ナリ
我輩ガ前ニ列叙スル所ノモノヲシテ果ノ信ナラシタハ我輩ハ
誰アリテ其信偽ヲ疑フモノナキヲ信ス夫ノ琉球事件ニ付テ徒
ニ支那ヲ激發シタガ如キハ乃チ日本ノ過失ナリ抑モ何人ヲ
問ハズ支那人ニ對スルニ唯其禮法ニ從フヲ以テ敢テ意ニ介
スルナクンバ千種萬般ノ事支那ニ於テ為シ得ザルモノナク又
其目的ヲ達スル能ハザルモノナシ是レ乃チ日本ガ支那ニ對シ

這般ノ事件ヲ處スルニ當テ失措セシ所ナリ是ニ由テ之ヲ觀レ
バ副島氏ノ支那人ニ處スルニ敏巧ナル必ス砲烟ヲ以テ迫ルニ
非ザレハ決シテ為シ得バカラスト曾テ衆人ノ斷念セシ所ノモ
ノモ曩ニ一千八百七十三年ニ於テ容易ニ北京内閣ノ承諾ヲ得
タルガ如キニ至テハ政府ニ比スレバ其巧拙何ッ啻ニ天壤ノミ
ナランヤ今爰ニ其奮勳ヲ枚舉センニ(第一)氏ハ支那ニ取テハ其
身外國ノ使臣ナルモ其欽命書ヲ捧呈スル為ニ支那帝ニ謁見
ルニ彼ガ叩頭九拜ノ禮ヲ以テセザリシガ如キ支那國ノ史乘ニ
未嘗有ノ特別ナル謁見ヲ遂ケ(第二)其前年日本ト支那トノ間ニ
締結シタル條約ヲ改正シ(第三)臺灣事件ニ付テ得ンコトヲ欲シタ
ルノ知息ハ一邦之ヲ得タル等ノ如キ大事ヲ遂ケタルモ猶氏ガ
支那ヲ出蔡スルニ當テハ臺モ信誼ヲ支那政府ニ失ハスルノ益
無ク極メタルトハ次カ天津ヲ經テ日本ニ歸航セントスルニ

嘗彼ノ李鴻章特ニ氏ヲ迎ヘテ饗請ヲ催シ更ニ氏ニ榮譽ヲ
副ヘタルガ如クテ之ヲ証スルニ足ルベシ
前頭ノ外ホク自テ世上ヲシテ感動セシメザル重要ノ一事アリ
而シテ世上モ亦其事ヲ思ハザルハ實ニ慨歎ノ至リナリ請フ之ヲ
左ニ開陳セン

夫レ支那ハ富國ナリ貨幣蓄積シテ其數幾千ナルヲ知ルベカラ
ス今ヤ支那ノ魯西亜ト事アルヲ論スルモノアリ然ルニ魯西亜
ノ今日ニ請求スル所ハ何ノ点ニ在ルカヲ問ハバ決シテ夫ノ銀
兩ノ外アルベカラス而シテ支那若シ止ムヲ得ザルニ至リ或ハ彼
ニ償金ヲ拂渡スベク自テ承諾スルノ日ニ至ラバ僅ニ一兩日ノ
間ヲ過スシテ夫ノ魯西亜ガ請求スル所ノモノニ十倍シタルノ
金額ヲ拂出シ能フベシ支那ハ四方ヨリ貨幣ノ匯集スル寰宇中
ノ最大富國ナリ支那ハ二千二百年間外國ニ輸出シテ止マザル

ノ國ニシテ支那ハ紀元前既ニ絹布ヲ羅馬及テフエネシヤニ輸出
シ而シテ過般發見シタル所ニ由レバ支那ハ往古埃及ト交通シタ
ルノ國ナリ然ルニ當時支那ハ莫大ノ物貨ヲ輸出シタルモ何等
外國ヨリ輸入セシ下ナキヲ以テ今日世上皆ニ疑惑ヲ生シテ曰
ク彼ノ輸出ノ為ニ當時ニ得タル貨幣ハ今何レニ蓄積シアル歟
又其貨幣ハ如何成リ行キシ乎ト而シテ我輩断乎トシテ當サニ之
ニ答フベシ曰ク其金ハ莫モ他方ニ散ヤス今猶支那ニ存スルヲ
以テ要用ナル場合ニ至ラバ何時ニテモ直ニ顯出スベシト支那
ノ殷富夫レ此ノ如シ此レ乃シ我輩ガ前ニ所謂支那ハ既ニ金ト
兵トニ富ムヲ以テ今ヨリ日本ヲシテ恐怖戰慄セシムバク又仮
令レ之ヲシテ戰慄セシムルニ至ラザルモ日本ヲシテ支那ヲ尊
重スベキ念慮ヲ懷カシムルニ唯其人民ノ上ニ一箇ノ兵傑ヲ
得
在リ

知ルニ支那ハ日本ノ事情ニ明ク其支那ノ日本國內ニ漏洩シ
タルヲ一トシテ聞知セザルキコトハ今日世人ノ始ト稱ス
ル所ニ非ス是迄ノ事跡ニ就テ論スルモ猶歷々トシテ其事ノ確
實ナルヲ証スルニ足レリ方今支那自ラ曰ク千八百七十四年
日本ニハ蓋世ノ英雄西郷隆盛アリ加フルニ爾後九州ノ劇戦ニ
討死シタル夫ノ勤王忠誠精英驍勇ノ士族三萬五千アリテ皆ナ
當時其國家及ヒ皇家ニ報ユル為ニ千々ヒ死スルモ悔ヒザル
烈士ナリキ而シテ當時彼等ガ日本ヲシテ愈強大ナラシメタルベ
キハ帝ニ其腰間ノ秋水ノミニ非ス但シ其劍撃突戦勇猛無雙ノ
立働、更ニ我輩ノ賞揚ヲ待タス尚其黨与ノ人民社會ニ彼輩無
比ノ勢力ヲ有シタルニ在リ此ノ時ニ當テハ日本實ニ恐ル、ニ
堪ヘタリ然レドモ今日ニ在テハ西郷既ニ斃レ其驍勇無雙ノ士
或ハ郷ニ无ツテ死シ或ハ西郷ニ伴フテ悉ク皆地下ニ赴キタ

ルヲ以テ最早日本恐ル、ニ足ラス而シテ日本既ニ上下和合ノ途
絶ヘ各ノ黨派ヲ為シテ相互ニ容レザルガ如キノ情状アリト云
フハ決シテ其誣言ニ非ザルバシ加フルニ大人保死シテ國家最
後ノ望ヲ失ヒ人心全ク乖離シテ内治ノ危急此ノ時ヨリ甚キハ
ナシ而シテ其外交上ノ位置ニ於テモ殆ド之ニ彷彿タルモノアリ
ト
此ノ是レ今日支那自ラ稱スル所ナリ素リ其虚妄ノ言タルヲ我
輩愛ニ之ヲ証明セザルベカラズ則チ日本全國ノ護神ナル帝ハ
彼令ニ幾分歎其神聖ノ性質ヲ失ヒタルモ今日ニ至ル迄眞ニ人
民ノ愛敬ヲ受テ而シテ人民ノ迷妄ニ出テタルノ信仰ヲ失ヒタル
ノ償トシテ益々人心ヲ収攬シタルガ故ニ其他ノ事ハ暫ク措テ
論ヤス人心和合ノ事ニ至ラバ再ビ之ヲ回復スルヲ得ルニ日
本國民中一人トシテ帝ヲ尊奉セザル者ナクナリ此ノ如キノ

成興ヲ生セシニハ或ル官文ノ如キ乃チ其人ノ價格ト行跡トハ
我輩現ハニ爰ニ論出スルヲ好ムザルモ猶一ノ原因アリテ人
望ヲ失シタルモノヲ政府ヨリ黜ソケ之ニ代フルニ彼輩ヨリモ
多ク人望ノ帰シタルモノヲ登庸スルヲ以テ充分ナリトスベシ
第一ニ峻良ヲ擇ンテ以テ外務省ヲ其手ニ委スルハ今日ノ如キ
状勢アルノ場合ニ於テハ特ニ急務ナリトス

副島氏ノ近日親驗スル所アリテ能ク支那ノ風土人情及ニ其慣
習ニ熟知スルヤ到底能ク支那ノ外交家ヲ説服スベキモノハ氏
ヲ除キ他ニ其人アルベカラズ而シテ彼ト夫ノ琉球事件ヲ商議決
定シテ敢テ衆望ニ負カザルベキモノハ獨リ氏ノ能クスル所ナ
リ但シ支那ハ素ヨリ臆病ノ議ヲ免レザルノ國ナリシト雖モ是
迄日本ヨリ該國ニ派遣シタルノ外交家ノ如キニ至テハ唯徒ニ
支那ノ政變ヲ以テ遂ニ今日ニ至リ日本ニ對シ右ニ叙述シタル

ガ如キ思惑ヲ懷カシムルニ至リ他ニ毫モ任遂ケ得タルヲナシ
所謂鐵甲中脆弱ノ點ヲ狙知スルモノハ獨リ副島氏ノ長所ナリ
而シテ氏ガ常ニ狙撃スル所ノモノハ其脆弱ノ點ニ在リ

我輩、既ニ日本政府ガ琉球事件ニ於テ何等ノ失錯ヲ為シタル
歟ヲ詳明シタリ然ルニ政府ガ徒ニ支那公使ヲ東京ニ招致シタ
ルニ因テ失錯ノ上ニ更ニ失錯ヲ重テタリ如何トナシバ該公使
ハ駐劄外國使臣中ニ支那語ヲ解スルモノナルヲ以テ容易ニ
之ト密謀ヲ通スルヲ得タルハケレバナリ而シテ琉球人モ亦此ニ
保護ヲ求ムベキアルヲ知テ之ヲ徒ニ看過シ附ヤザリシナリ
東京ニ於テ情狀此ノ如クナルニ琉球ニ派遣シタル内務省ノ使
者ハ竟ニ其溫和懇篤ノ使命ヲ達スルヲ得スシテ恰モ家主ガ
其婢僕ヲ叱責スルガ如キノ處置ヲ為セリ彼ノ使者ノ當時此ノ
如キ處分ヲ為スベキ難ク有ニタルノミナラス尚別ニ政府ヨ

リ彼ヲ授クルニ確固タル訓命ヲ以テシタルニモ因リ素リ
彼ヲ深ク咎ムバキニ非ズ然リテ魚氏皮カ施シタル所ノ者ヲ見
ルニ當時事ヲ処スルニ一モ止ムヲ得ザルニ出タリト認ムバキ
モノアラザルナリ
北京ノ日本代理公使モ亦敢テ彼ト伍ヲ異ニセス而テ該公使ハ
彼令ニ當時何等ノ憤發心ヲ有レ何等ノ智謀ヲ有シタルニモ
尚明白ニ詳説スルニ於テハ却テ其成跡ハ彼ノ使者ヨリモ甚々
劣ル所アリ令夫レ此ノ如キ下拙ノ政畧ヲ施シタルヲ為ニ琉人
中ニ非常ノ不平心ヲ生シ當時殆ド暴祭セントスルノ勢ニ迫
リタルノミナラス外交耶ト容易ナラザル釁隙ヲ啓キ内靜寧無
事ヲ覓ムルノ言絶ヘザルニ忽チ外釁ノ事起リ更ニ人心胸ノ
基ヲ致セザル
今將テ又耶ト開カントスルノ談判ニ付テハ豫メ想像スル所

ノモノヨシ尚長ク日子ヲ費スマシ遺憾ニ堪ヘザル事ドモ
ナリ然リテ支那愕然トシテ激怒スルヤ其第一ノ執政家ナル
李鴻章憤憑シテ止マス其然ル所ノモノハ蓋シ復タ故ナキニ非
ザルナリ然レドモ支那ガ憤激シタルノ事由ナリト世上ニ云フ
所ノモノハ信ノ事由ニ非ス這般ノ事件ニ於テ此ノ如ク特ニ支
那ヲ激發スルモノハ夫ノ日本政府ガ琉人ニ向テ暴行ヲ縱マ
ニシタルガ為ニ非ス又支那ハ兵力ニ頼ラザレバ琉球三十五島
ヲ回復スル能ハスト自ラ信認ニタルニ非ザルナリハ明瞭ナリ蓋
シ此ノ三十五島タル支那ノ大國ニ取リテ僅ニ三粒ノ砂子タ
ルニ過キス而テ支那ノ慣習トシテ己ノ所屬ノモノニ非ザレ
バ決シテ之ヲ敬愛セス其所屬ノ外ニ在ルモノハ悉ク之ヲ輕侮
シ之ヲ野蠻視スルガ故ニ其琉球ヲ視ル猶チ南洋ノ各國ニ於ケル
ニ異ラス加フルニ海軍兵畧トシテ也位ニ就テ論セシニ琉球ハ

理学、道德的
ノ傳説トハ孔子
夫子ノ道ヲ謂フ
ナラン

其四、海濱ニ珊瑚ノ岩礁此ニ夫々、電信ノ發明以
來ハ嘗テソノ往日に占有シタルノ利益ヲ失フ、此ノ如キガ
故ニ支那其王島ヲ得ルモ其價格ハ以テ之ヲ保護スルノ煩ヲ償
フニ足ラザルナリ是ヲ以テ支那ガ近隣兩國ノ爭論ニ干渉スル
真正ノ旨意ハ乃チ日本政府ガ琉球人ニ施シタルノ所為ニ付キ
其名義トスル所乃チ之ヲ詳説スレバソノ自ラ進シテ方々文明
開化ノ思潮ニ投ゼンガ為メニ往古ヨリ數百年間支那ト共ニ遵
奉シタル夫ノ理学及モ道德的ノ傳説ノ如キハ既ニ之ヲ廢棄セ
ル者ヲ日本ノ漸言シメル事ニ在リ
然リ而シテ支那ニ於テハ一二ノ要点ニ関シテ泰西各國ヨリ條約
ヲ更訂センコトヲ強請セラル、時機ニ當テ殊更ニ日本政府ガ右
ノ如キノ斷言ヲ為シタルノ一條ハ支那ニ對シテ其歐米各國ト
通交ヲ始メ、以テ以來ノ最、甚シキ報復攻撃ナリト謂フベシ若シ

爰ニ學ビテ受業中其師ノ譴責、及ンデ之ヲ忍フバ
カラズトヤ、其同列ニシテ前日過失アリ次日復々一層嚴酷ノ
譴責ヲ師ニ免カレザルノ徒漫リニ鷹揚雷同シテ共ニ彼ノ學生
ヲ叱咤スルニ及ンデヤ其情ニ於テ忍フベカラザル更ニ前ヨリ
甚シキモタルベシ日本ノ支那ニ於ケル殆ンド之ニ彷彿ス
ノ情状アリ
今ヨリテ日本ハ支那ノ深ク凌辱侮慢ヲ受ケタルヲ憤リ向來
ニ日本ヲ敵視スベキヲ知リテ自ラ欺クコトヲ得ザルベシ但シ曩
ニ日本非常ノ英斷ヲ舉行シタルガ為ニ其ノ新交ノ友邦ニ無上
ノ賞揚ヲ受ケタルモ猶退テ其一方ヲ顧レバ人當ヤニ之ニ問フ
バシ曰ク炳焉其体面ヲ一新シタルガ為ニ彼ノ友邦ニ得タルク
賞譽ハ果ノ其一新ヲ為スニ付テ自ラ致セ、了ノ不利ト困難ト
ヲ相償フニ足ルヤト

此ノ大計ニ因リ日本ノ自ラ招キタル困難ニ以テ救済スルノ
良計ヲ説示スルハ素アリ易ク業ニ非ス但シ今日ノ情形ニ於
テ和戦ノ論議ニ關スル諸事ニ付テハ支那若シ日本ト釁ヲ啓テ
兵ヲ交ユレバ則チ其ノ結末如何ハ之ヲ今日ニ預言フルヲ得ス
ト雖モ偶々以テ日本ヲ利スルニ足リ而シテ臺モ支那ヲ利スル
ナキハ支那ノ能ク熟知スル所ナルベシ況ヤ支那ノ遠謀アルヲ
ハ各國之ヲ以テ諺トスルニ於テヲヤ

余輩之ヲ思フニ支那必ス此等ノ事ヲ知ラン人ヤリ若シ支那ヲ
シテ之ヲ知ラシメント欲ヤバ支那ニ於テ最モ顯明ナル
シヤニ不幸ニシテ今既ニ墓ニ皈スノ五年前曾テ日本ノ外交家
ニ語リタル一場ノ戯話ヲ此ニ贅スルニ若クハナシ此ノ使臣ハ
年壯ニ氣猛リ當時兩國ノ間ニ成立スル論点ヲ討論スルニ方ツ
テ話次續々現當ノ外ニ越シ難シ極タリ時ニ此ノ有オナル

宰臣乃チ之ニ語テ曰ク

昔シ鳥アリ往テ蠶ノ居地ニ棲止ス蠶初メ之ヲ見テ以テ敢テ
意トナサズ於是乎鳥漸ク暴慢憚カル所ナシ蠶怒テ之ニ報ヒ
ン、欲スルモ鳥翼健ク飛フヲ捷シ彼レ其ノ長技ヲ恃ミ愈々
蠶ヲ輕シス而シテ彼ノ自ラ以為ラク我能ク飛テ空ニ翔リ礁
ノ小蠶行テ僅ニ尺寸ニ過ズ固ヨリ慮カルニ足ラザルナリト
然レモ蠶日ニ之ヲ伺テ倦マズ一日鳥下テ食ヲ求ムル所ノ小
蟹ヲ啄ム蠶乃チ口ヲ開テ其ノ足ヲ銜ミ固持シテ釋サズ時ニ
猶漁夫マリ之ヲ觀テ甚ダ喜ブ遂ニ兩ナガラ捕テ去ルト
此ノ一話ハ余輩既ニ千八百七十四年ノ事ヲ論述セシニ當リ其
意義明瞭ナリヲ以テ更ニ之ガ解釋ヲ為スヲ要ヤザルベシ
今日ノ舞臺ニ於テハ俳優ハ同ク前日ノ人ナリ然レモ其役割ハ
復タ前日ト同カラス乃チ心神變テシテ今ノ舞臺ニハ支

那ナリ礁上ニ黙卧シテ時度ヲ俟ツモノハナリ然リト虫モ
突然未来ニ非常ノ變態ヲ現出スベキ此ノ類 戲場ニ於テハ帳
裏ニ政事上ノ演戲ヲ指揮スルモノアリテ時々鉄線ヲ援擁シテ
中ノ風趣ヲ致スニ巧ナルモ此ノ指揮者ハ現ニ演スル竹ノ戲事
調和ヤス中途ニシテ忽チ瓦解スルニ及ンデ更ニ自ラ痛痒セザ
ルモノナリ幸ニ兩國此等ノ事アルヲ忘ル、勿レ

